

第4章 現状と課題

第1節 保存管理の現状と課題

棚倉城跡における保存管理においては保護すべき本質的価値の様相が不明確な現状があり、二ノ丸西面石垣の崩落や北二門の礎石が露出した状態にあるなど、遺構保存のための対策が必要な箇所もある。

1 発掘調査・研究

【現状】

現在までの発掘調査は開発に伴う調査が主であり、計画的な調査を実施していない。また、継続的な調査・研究も行われていない。城郭構造の解明に至っておらず、価値が明らかになっていない。保護すべき価値があるにもかかわらず、価値の様相が明確でない部分が多い。

【課題】

保存活用の方法を検討するうえでの遺構の全体解明や、遺構の保存・表示に必要な知見を得るために、計画的かつ継続的な発掘調査や棚倉城跡の本質的価値を高めるための調査・研究活動が必要である。中・長期的な方法について検討する必要がある。

2 遺構の保護

【現状】

土塁、堀、礎石など一部は露出した状態にある。北二門の礎石については、本丸に入る車の通路脇に露出している。また、本丸土塁には樹木が育成し本質的価値の一つである土塁の存在が明確になっていない。生育木の根や倒木が土塁の保存に影響を及ぼすことも考えられる。

【課題】

露出した礎石等について、遺構保存のための対策を講ずる必要がある。



既存木の根



北二門礎石

3 周辺環境・景観

【現状】

本丸土塁上及び法面、本丸堀周囲の樹木によって、本質的価値の一つである土塁の形状が本丸平場や二ノ丸から見えにくい状況になっている。よって史跡（城跡）としての存在や価値が認識されにくい状況にある。

【課題】

植栽から 100 年以上を経過した老朽化したサクラ、高木化したケヤキ、繁茂したツツジなどの取り扱いが課題である。県立自然公園及び都市公園であることから、四季折々の樹木を鑑賞することを目的に訪れる人も多く、樹木の取り扱いに対しては利用者、関係機関との綿密な調整が必要である。

4 史跡指定及び公有地化

【現状】

二ノ丸の本丸堀周辺の道路及び道路敷きにある県指定天然記念物「棚倉城跡の大ケヤキ」、二ノ丸全体と三ノ丸（林曲輪）については国史跡の指定がされていない。二ノ丸西面石垣については民有地である。

【課題】

- ・必要に応じて調査を進め、追加指定を進めていく必要がある。
- ・本丸堀周辺の道路及び道路敷きにある県指定天然記念物「棚倉城跡の大ケヤキ」については、史跡指定地外にある本質的価値を構成する要素の一つであり、樹木と育成地を含む土地を早急に国による追加指定を目指す必要がある。
- ・二ノ丸西面石垣については、土地所有者の理解と協力を得て公有地化を図る必要がある。

第2節 活用の現状と課題

棚倉城跡は、廃城後には追手門跡に東白川郡役所が置かれ、また県立自然公園及び都市公園として多くの町民に親しまれている。本丸平場は昭和 43 年（1968）には町中央公民館と庭園、昭和 53 年（1978）に町立図書館が建設されるなど公的な空間として利用されてきた。現在は庭園を残すのみで、イベント広場、駐車場等として利用されている。本丸南柵形にはトイレ、二ノ丸東側には「多目的広場」、追手門付近には「棚倉町茶室」が整備されている。

1 既存サイン・施設等の体系

【現状】

国道 118 号・国道 289 号及び県道黒磯・棚倉線からの案内標識では「城跡公園」「亀ヶ城公園棚倉城跡」「棚倉城跡」と設置者、設置時期により様々な標記で案内している。

四阿、公衆トイレ及び遊具、多目的広場、町茶室等が整備されている。



番号 10



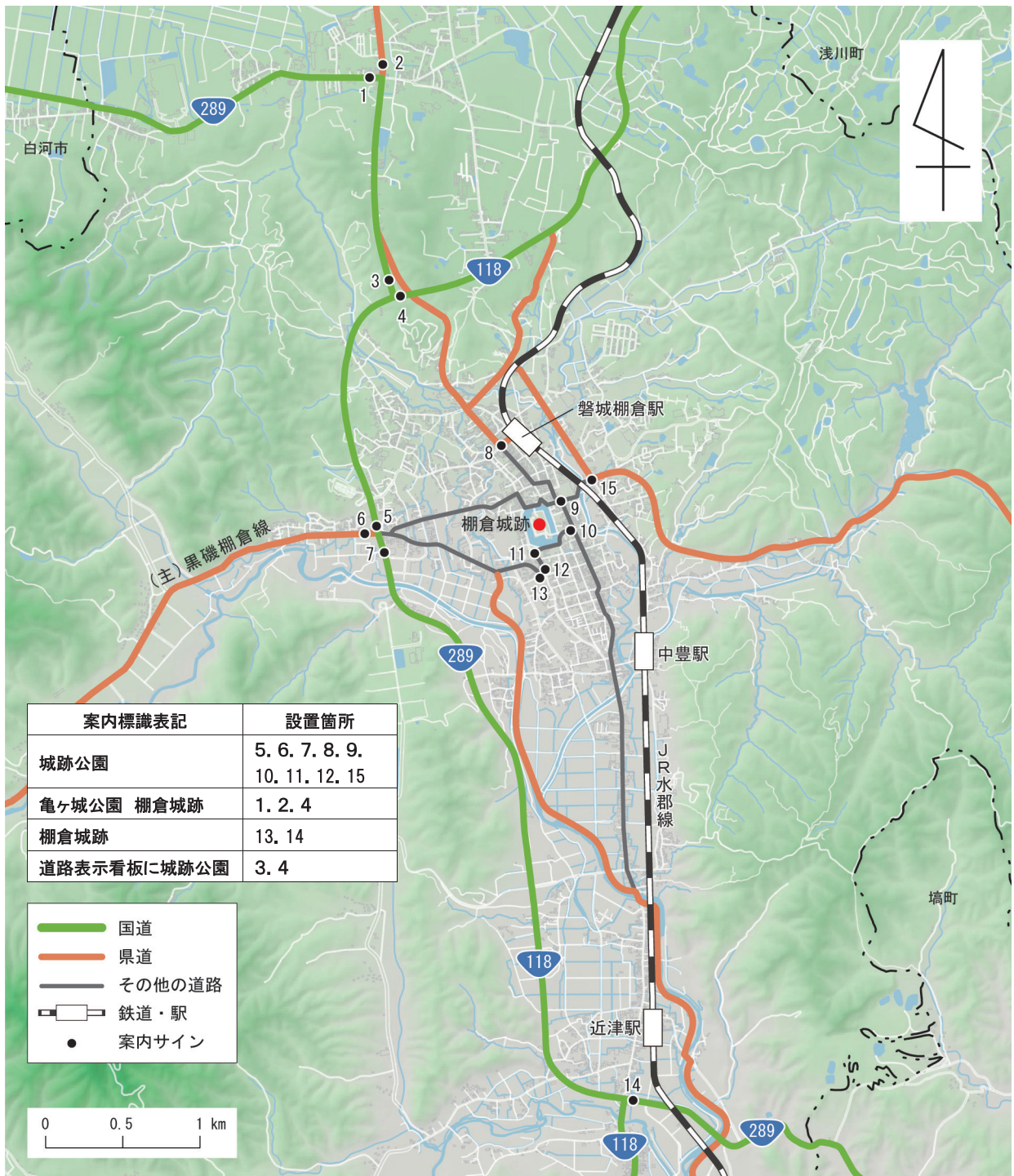
位置 4



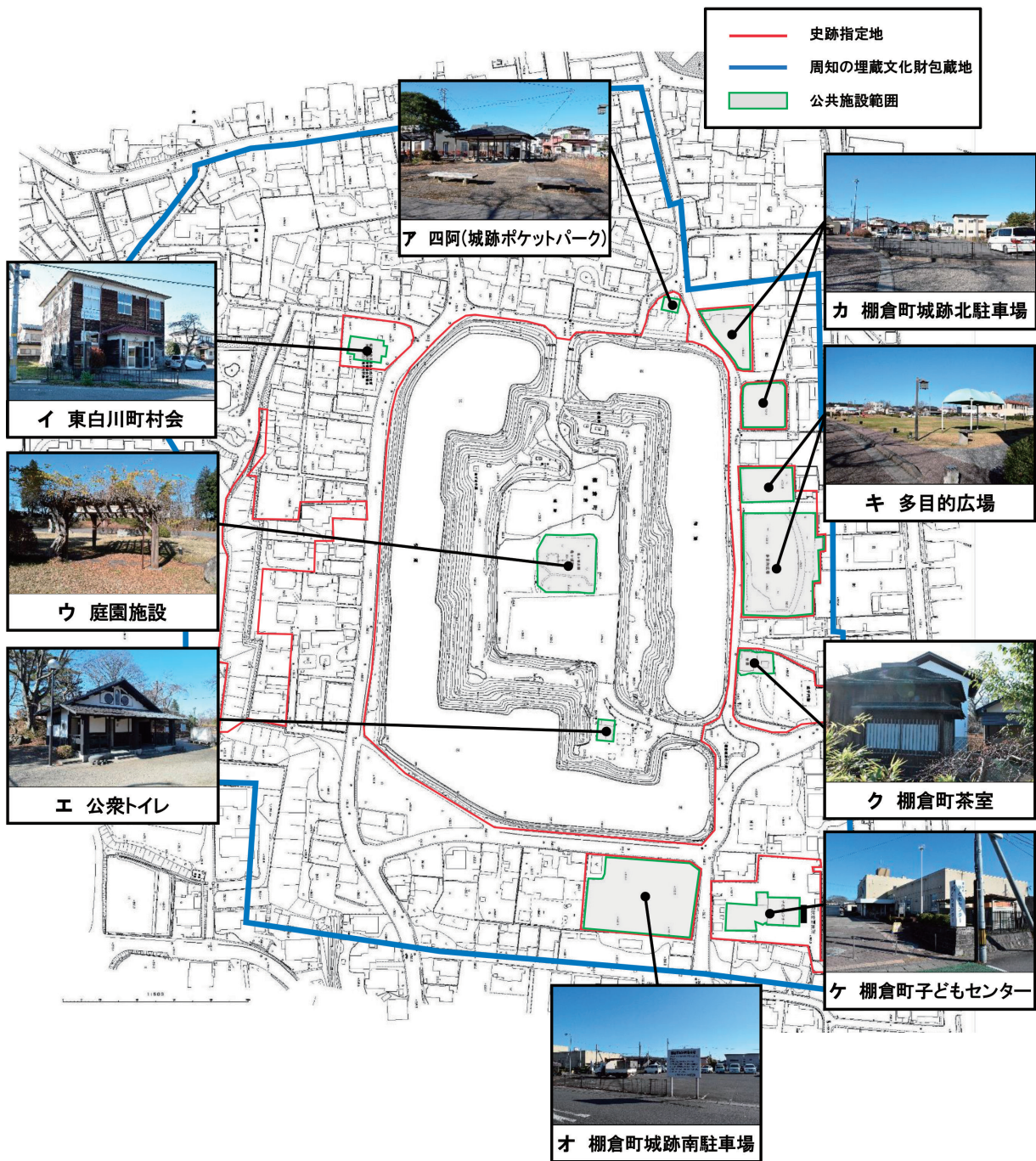
位置 13



位置 3



第 42 図 案内標識位置図



第 43 図 公共施設等位置図

【課題】

- ・ 国道及び県道からの案内標識は、棚倉城跡への案内の表記が統一されていない。
- ・ 休憩施設としては、史跡内に四阿が本丸土塁上に 1 箇所、二ノ丸北部分に 1 箇所ある。公園利用者のために設置されたもので、設置場所や形状など史跡の空間に配慮したものにはなっていない。また、今後整備予定の周遊ルートや視点場に位置している。
- ・ 史跡内に設置されている公衆トイレは、追手門跡付近にある棚倉町茶室休憩棟のトイレ及び本丸南櫓形虎口のトイレがある。棚倉町茶室休憩棟のトイレは貸館がある場合

のみ使用可能となっている。本丸櫛形虎口のトイレについては、史跡の本質的価値を構成する要素である櫛形虎口にある。

- ・公衆トイレについては、多目的用トイレを併設しているが、ユニバーサル対応になっていない。老朽化も課題である。
- ・史跡内には「棚倉町城跡南駐車場」「棚倉町城跡北駐車場」が整備されている。大型観光バスについては、史跡の近隣に大型駐車場が無いため南駐車場を利用している。
- ・駐車場は史跡内に整備されており、今後の増改築は困難である。
- ・通行の安全、治安維持を目的に街路灯や防犯灯が本丸内や本丸堀周辺、トイレ周辺、多目的広場周辺に設置されているが、配置・機能やデザインが統一されていない。

2 学校教育・社会教育

【現状】

学校教育の連携としては、例年、町内小・中学校に転入した教職員を対象とした「史跡めぐり」の際に棚倉城跡を見学コースに組み入れている。町内の小学校では総合的な学習の時間の一環として、中・高学年を中心に棚倉城跡の見学を行っている。例年約 100 名に棚倉城跡の構造や歴史について現地での説明を行っており、児童にとって生活の一部となっている棚倉城跡の歴史を知る貴重な機会となっている。社会教育における棚倉城跡の主な活用・情報発信は第 10 表のとおりである。

【課題】

- ・町内各小・中学校に対しては、現地案内や現地説明で積極的に協力する旨を周知しているが、広がっていない。
- ・史跡めぐりや職員による現地説明はその後、教員によって教育現場で活かされているのかは不明であり、教材研究や授業計画の段階から継続的に教職員と連携することが必要である。
- ・社会教育における活用・情報発信については、補助事業により実施したものが多く、補助事業終了後の事業を継続ができない、参加者の固定化や若者の参加が少ないため、史跡の価値をより多くの人々に周知するための体系が無いことが課題である。
- ・文化財理解の新たな取り組みとして、アートと文化財の融合、コスプレイベント会場としての文化財の利用も実験的に実施しているが、地元町民への理解を得られていない、見学者・参加者の増加に繋がっていないため、文化財の新たな利用価値について協力を得られるよう周知を図る必要がある。

第 10 表 棚倉城跡の主な活用・情報発信一覧（平成 26 年度以降）

年月日	内 容 等	場所等
H26.4.18	棚倉町歴史講座～棚倉城跡の国指定史跡を目指して～ 報告「棚倉城跡の調査」町教育委員会生涯学習課学芸員 藤田直一 報告「棚倉城の絵図」茨城大学院生・棚倉城跡調査員 山川千博 報告「棚倉城跡出土の陶磁器」茨城大学院生・棚倉城跡調査員 栗原 悠 講演「棚倉城の石垣」東北芸術工科大学歴史遺産学科准教授 北野博司 氏 討論 北野博司 氏 丹羽家 18 代当主 丹羽長聡 氏 阿部家 22 代当主 阿部正靖 氏	町立図書館
H26.4.19	殿様のご子孫と棚倉城めぐりツアー	棚倉城跡
H27.4.14	棚倉町歴史講座～棚倉城跡の国指定史跡を目指して～ 報告「棚倉城跡の調査概要」棚倉城跡調査員 山川 千博 講演「城郭史の中の棚倉城」福島県文化振興財団課長 飯村 均 氏 対談「丹羽長重公の素顔に迫る」 丹羽家 18 代当主 丹羽長聡 氏 作家 蓑輪 諒 氏	町立図書館
H27.4.18	昔の絵図を持って歩こう お殿様のご子孫と	棚倉城跡
H27.10.7 ～ 10.11	「文化財展」 指定文化財等を展示	町文化センター
H27.10.10	奥州棚倉藩評定～関ヶ原合戦からの復活～ 評定 町長、歴代棚倉藩主の現当主やご子孫、所縁の方を招いての意見交換 講演 「大徳寺と立花宗茂を含む戦国大名」京都大徳寺大慈院住職 戸田実山 氏 「武将 立花宗茂」作家 上田秀人 氏 「西軍」諸将の「関ヶ原」合戦 九州大学大学院教授 中野 等 氏 対談 作家 上田秀人 氏、作家 蓑輪 諒 氏 演舞 熊本城おもてなし武将隊 立花宗茂、小西行長、島津義弘が参上 民俗芸能上演 「八槻都々古別神社の神楽」（県指定）八槻都々古別神社楽人会	町文化センター
H27.10.10 ～10.11	東北の小京都「棚倉」を楽しむ 1 泊 2 日の旅	棚倉城跡他
H28.3.19	棚倉城発掘調査現地説明会 本丸土塁上の 2 か所から多聞櫓礎石を検出	棚倉城跡
H28.4.15	棚倉町歴史講座～棚倉城跡の国指定史跡を目指して～ 講演「丹羽家ゆかりの城石垣を読む」 東北芸術工科大学歴史遺産学科教授 北野博司 氏	町立図書館

	報告「丹羽家の城くらべ～棚倉城・小峰城・二本松城～」 棚倉城跡調査員 塚野聡史 白河市役所 鈴木 功 氏 二本松市教育委員会 佐藤真由美 氏 丹羽家 18 代当主 丹羽長聡 氏 阿部家 22 代当主 阿部正靖 氏	
H28.4.16	藩主のご子孫と城下町を歩こう	棚倉城跡
H28.8.20	棚倉城跡発掘調査現地説明会 多聞櫓の曲輪側の礎石列、本丸南西隅櫓の礎石を検出	棚倉城跡
H28.9.22	ペーパークラフト教室 「立花家の金箔押桃型兜を作ろう！」	町立図書館
H28.9.23 ～ 9.25	文化財展 指定文化財等を公開	町文化センター外
H28.9.24	奥州棚倉藩評定～復活の城 赤館城と棚倉城～ 評定 町長、歴代藩主の現当主やご子孫、(勅)立花家史料館長、京都大徳寺芳春院就職による討議 講演「西国一の兵立花宗茂」作家 童門冬二 氏 「赤館城と棚倉城」福島県立博物館学芸員 高橋 充 氏 民俗芸能上演 「八槻都々古別神社の神楽」(県指定)八槻都々古別神社楽人会 演舞 熊本城おもてなし武将隊 立花宗茂、加藤清正、黒田官兵衛、あま姫(清正の娘で阿部家に嫁ぐ)が参上	町文化センター
H28.9.24 ～ 9.25	東北の小京都「棚倉」を楽しむ 1泊2日の旅	棚倉城跡他
H28.9.25	棚倉藩大茶会	棚倉町茶室外
H28.9.25	東北の小京都たなぐら 時代絵巻 コスプレイベント	棚倉城跡外
H28.9.25	城跡ウォーキング 「よみがえる築城のようす！」	棚倉城跡
H29.4.14	棚倉町歴史講座～棚倉城跡の国指定史跡を目指して～ 講演「棚倉城跡の歴史的価値」福島県文化振興財団課長 飯村 均 氏 報告「棚倉城跡の調査概要」棚倉城跡調査員 塚野聡史 対談「甦れ！棚倉城」丹羽家 18 代当主 丹羽長聡 氏 阿部家 22 代当主 阿部正靖 氏 史家 中西光雄 氏	町立図書館
H29.4.15	藩主のご子孫と城下町を歩こう—古地図散歩—	棚倉城跡
H29.9.24 ～ 9.25	東北の小京都「棚倉」を楽しむ 1泊2日の旅	棚倉城跡外

H29.10.7	奥州棚倉藩評定～英雄たちの復活～ 評定 町長、歴代藩主の現当主やご子孫、勅立花家史料館長、京都大徳寺芳春院就職による討議 朗読舞台 葉室麟著「無双の花」立花宗茂と間千代 戦国最強の夫婦 対談 作家 葉室麟 氏と勅立花家史料館長 植野かおり 氏による歴史談義 演舞 熊本城おもてなし武将隊 島津義弘、細川忠興、あま姫（清正の娘で阿部家に嫁ぐ）が参上	町文化センター
H30.10.13	棚倉戊辰戦争 150 周年記念シンポジウム～ふるさとを愛する武士の心～ オープニングイベント「上山藩鼓笛楽演奏」（上市市指定文化財）上山藩鼓笛楽保存会 講演「奥羽越列藩同盟の多面性」東北大学大学院研究員 栗原伸一郎 氏 パネルディスカッション 「戊辰 棚倉の戦い」 阿部家 22 代当主 阿部正靖 氏、桜の聖母生涯学習センター講師 岡田峰幸 氏 土佐史談会副会長 公文 豪 氏、声優 阪口大助 氏 文化財展示 戊辰戦争に所縁のある西郷頼母の著書等の展示 和装コスプレイベント	町文化センター
H30.11.10 ～11.18	東北の小京都たなぐら文化財展 指定文化財等の展示	八槻家住宅
R 2.11.12	町内文化財めぐり 公民館事業「修道館大楽」受講生による見学	棚倉城跡



小学生総合学習での見学



戊辰戦争 150 周年シンポジウム



撮影スポットとしての活用

3 関連団体の活動

【現状】

町には、観光ボランティア「ふるさとガイドゆかりの会」、観光ボランティアガイド「棚倉ふるさとガイド」がある。棚倉ふるさとガイドは、棚倉町観光協会が、ふくしまデスティネーションキャンペーンを契機に、観光客受け入れ体制を充実させるため、観光ガイド育成の一環として立ち上げたものである。棚倉ふるさとガイドの立ち上げに際しては、町と棚倉町観光協会が連携して、「棚倉ふるさと講座」や、ご当地検定として「棚倉ふるさと検定」を実施し、町の魅力の再確認と知識の醸成に努めてきた。この中で、棚倉ふるさと検定1級合格者を中心に観光ガイド登録の募集を行い、棚倉ふるさとガイドが誕生した。棚倉城跡の見学に際しても積極的に対応している。他に、棚倉町観光協会城跡支部があり棚倉城跡の国史跡指定を契機に発足した。同支部は、城跡周辺のごみ拾いなど環境美化に取り組んでいる。追手門跡周辺については、町商工会女性部がボランティアで除草を行っている。

【課題】

各ボランティア団体の会員が増えないこと、会員の高齢化、学習の機会が少ない。観光分野の活動が主で文化財保護側との連携が図れていないことが課題である。

4 イベントの開催

【現状】

棚倉城跡を会場として例年4月下旬に、町商工会主催による「十万石棚倉城まつり」や10月下旬には「わくわく棚倉城食フェスタ」が開催されている。

(1) 「十万石棚倉城まつり」

主催 十万石棚倉城まつり実行委員会（棚倉町商工会内）。棚倉城跡を会場に、地元産の新鮮採れたての野菜や旬の果物、また棚倉町の特産品などの屋台が軒を連ね、たくさんの方が訪れる。また、当日は火縄銃の演武や鎧兜に身を包んだ、武者行列が行われ、遙か昔を彷彿とさせる光景が広がる。

(2) 「わくわく棚倉城食フェスタ」

主催 わくわく棚倉城食フェスタ実行委員会。会場となる棚倉城跡には、県内の飲食店が多数出店し、自慢のグルメが堪能できる。当日は小さなお子様連れの姿も多く見られる。令和4年（2022）はコロナ禍ということもあり例年開催されていたイベントは中止となった。

(3) 令和4年度のイベント

- ・「たなぐら sakura マルシェ」4月10日開催。主催はたなぐら商工業魅力発信実行委員会（棚倉町商工会内）
- ・「種倉茶屋」7月6日開催、主催は県立修明高等学校情報ビジネス科3年エリアマネジメントコース13名の生徒が、販売実習の一環として棚倉城跡の「阿部正備茶室」で「種倉茶屋」を開店

- ・「棚倉冬のスカイランタンフェスティバル」11月19日開催

【課題】

- ・棚倉城跡を会場とするイベントは主に商工業関係の主催によるもので、城跡本丸を平らな場所として捉え開催するもので、棚倉城跡価値や保護については関心が持たれていないのが課題である。
- ・イベント開催時やサクラや紅葉以外に訪れる人が少なく、通年を通して集客を図れるような「見どころ」や「魅力」が不足してるのが課題である。
- ・イベント会場となっている場所が本丸御殿跡であることを知る人は少ない。県立修明高等学校による「種倉茶屋」は、史跡と地元高校生が関わり良い機会であるが、開発した食品の販売会場としてのみ位置付けており、棚倉城について理解を深める契機になっていないのが現状である。



修明高等学校による「種倉茶屋」



十万石棚倉城まつり

5 維持管理の現状と課題

【現状】

本丸は、都市公園に位置づけられていることから、棚倉町整備課都市計画係が日常の維持管理及び樹木等の維持管理を行っている。係長1名、係員2名であるが、主に担当しているのは1名である。公園管理という事務分掌で対応している。日常の管理としては、週に3日程度、現地の見回りをを行い、上堀と下堀の水量調整、ゴミ拾い、トイレの管理、遊具の点検、違法駐車有無の確認などである。

二ノ丸にある町有施設の所管は以下のとおりである。

棚倉町茶室：町生涯学習課

棚倉町子どもセンター：町子ども教育課

東白川町村会建物：町総務課

多目的広場：町整備課

棚倉町城跡南駐車場・棚倉町城跡北駐車場：町産業振興課

【課題】

- ・近年では公園内の樹木が樹勢衰退しており、落下した枯枝の除去作業が増えている。

- ・公衆トイレについては夜間人気が無いために防犯上の対策が必要である。
- ・春と秋には多くの観光客が訪れる時期にはゴミ拾い等の業務量が増大し、対応できないのが課題である。
- ・二ノ丸にある町有施設の所管は複数の課にわたるために、史跡の価値の共有や調整が課題である。また、各施設とも史跡内に整備され、老朽化した建物もあり今後の改修が課題である。

第3節 整備の現状と課題

棚倉城跡における整備は、観光担当部署及び公園管理担当部署が設置した説明板や標柱、便益施設等に留まっている。遺構の説明や表示、公開のための施設等の整備は未着手である。

棚倉城跡における整備の現状と課題を以下に示す。

1 遺構の表現

【現状】

現状では遺構の表示や解説については、追手門跡に1箇所解説板があるのみで未整備の状態にある。土塁、堀、礎石など、露出している遺構は見ることができるが、本来形状から変容している部分もある。また、櫓、多門櫓、門、本丸御殿、二ノ丸の建物群等は滅失しており、その基礎跡が地表下に埋蔵されている。

【課題】

- ・多門櫓等では発掘調査の成果に基づき、表現方法を検討する必要がある。
- ・本丸平場・御殿では発掘調査等を実施したうえで、表現方法を検討する必要がある。
- ・本丸平場は、本丸御殿が建てられていたことを視覚的に理解するための表現方法を検討する必要がある。
- ・二ノ丸の建物群については実態が不明であり、将来的には発掘調査等を実施したうえで、既存施設・機能等と調整を図りつつ、表現方法を検討する必要がある。

2 修景及び植栽

【現状】

本丸土塁及び法面は、多く樹木に覆われている。記念樹木もあるが管理者が不明である。また、本丸平場には旧町中央公民館の付属庭園が残されている。

【課題】

二ノ丸側からの景観の改善を図り、本丸土塁を顕在化する必要がある。本丸土塁の生育木は、遺構を顕在化させるうえで、また、土塁遺構を保護・保存するため生育木の適切な管理が必要である。ただし、県立自然公園及び都市公園として訪れる人も多いことから整備については遺構の保護を前提としつつ、関係各署との協議が必要である。

3 案内・解説施設

【現状】

本丸内に、公園利用の案内板2基、棚倉城の解説板1基、戊辰戦争の解説板1基、二ノ丸に追手門跡の解説板1基が設置されているが、遺構や史跡の本質的価値に対する解説等を行われていない。デザインも様々である。

【課題】

計画的な案内・サインシステムの充実と、景観に配慮した形状に可能な限り統一する必要がある。棚倉城跡の本質的価値を理解できる案内・解説を行なう必要がある。また、子供や外国からの来訪者にも分かりやすい表現にも配慮し、日常的なメンテナンスや情報更新が容易なものとする等の必要がある。

4 管理施設及び便益施設

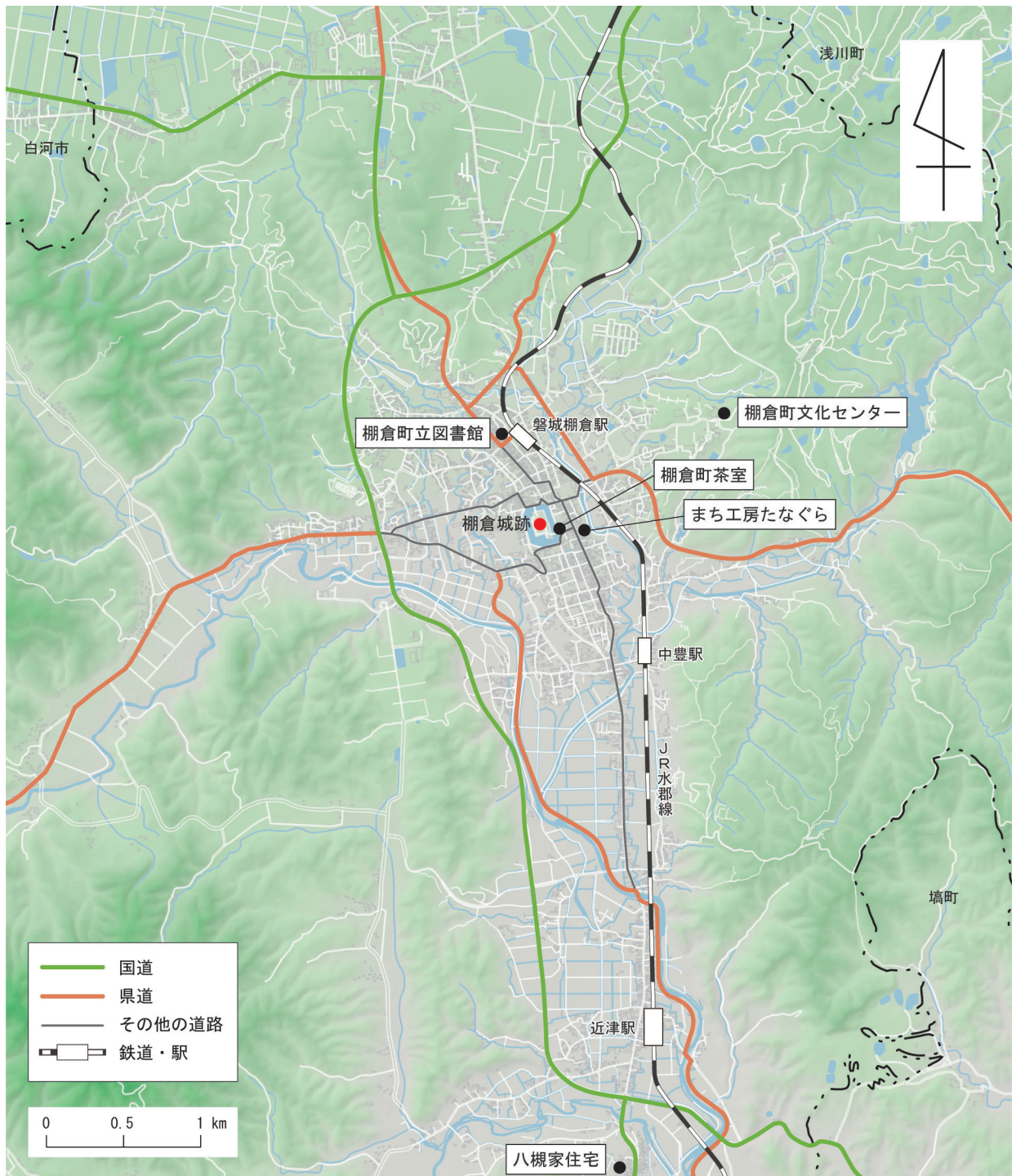
【現状】

史跡内には公衆トイレと駐車場がある。公衆トイレは利用者の便益施設として平成12年（2000）度に整備された。駐車場は棚倉町城跡北駐車場と棚倉町城跡南駐車場がある。大型バスは棚倉町城跡南駐車場に駐車可能である。

なお、棚倉城跡に関する展示や解説については、棚倉町立図書館多目的ホール・棚倉町文化センター展示室、棚倉町茶室、八槻家住宅展示室、町工房たなぐら等で行っている。

【課題】

- ・二ノ丸には「棚倉町城跡南駐車場」「棚倉町城跡北駐車場」が整備されているが、史跡指定地内における駐車場の設置は原則認められていない。しかし、現在、史跡指定地外の近隣に見学者用駐車場が無い場合、当面は使用しつつも、将来的には移転を検討する必要がある。
- ・本丸の枳形虎口には現状トイレと「遊具」等が整備されている。史跡指定地外の近隣にトイレが無い場合、いずれも当面は使用しつつも、将来的には移転を検討する必要がある。
- ・遺物や資料の屋内展示及び解説を行い、来訪者の理解を深めるための施設を設ける必要がある。施設整備に際しては、ユニバーサルデザインに配慮したうえで、駐車場を備えた休憩やトイレなど複合的な機能を持った施設として整備する必要がある。
- ・二ノ丸にある棚倉町茶室、棚倉町子どもセンター、東白川町村会建物、棚倉町城跡南駐車場・棚倉町城跡北駐車場についても利用状況を調査・分析したうえで、関係課や関係団体との協議を重ねて、将来的には移転を検討する必要がある。



第 44 図 棚倉城について展示を行った施設位置図

第4節 管理運営体制の現状と課題

【現状】

棚倉城跡の保存に関する事項は町教育委員会生涯学習課が所管し、公園としての日常的な維持管理及び整備については町整備課が、活用については町地域創生課が担当している。

令和2年（2020）6月に策定した「棚倉町歴史的風致維持向上計画」には、維持すべき歴史的風致の一つとして「棚倉城跡と城下町のまつり、行楽に見る歴史的風致」を掲げ、取り組むべき事業として「棚倉城跡周辺道路整備事業」「棚倉城跡観光拠点整備事業」を計画している。

【課題】

本史跡を適切に保存管理し、活用や整備を円滑に進めていけるよう、担当部署の適正な職員配置や庁内関係各課との連携強化に努める必要がある。

町内の各種団体及び関係機関と連携を図り、史跡を活用するネットワーク化として連絡・調整体制の構築を行なう必要がある。史跡周辺の各種整備計画との適合性を確保しながら、庁内関係部局と連携を進める必要がある。